

低炭素都市推進国際会議2009 in 横浜市

持続可能性を追求した
地域からの政策提言
～環境モデル都市 飯田市～

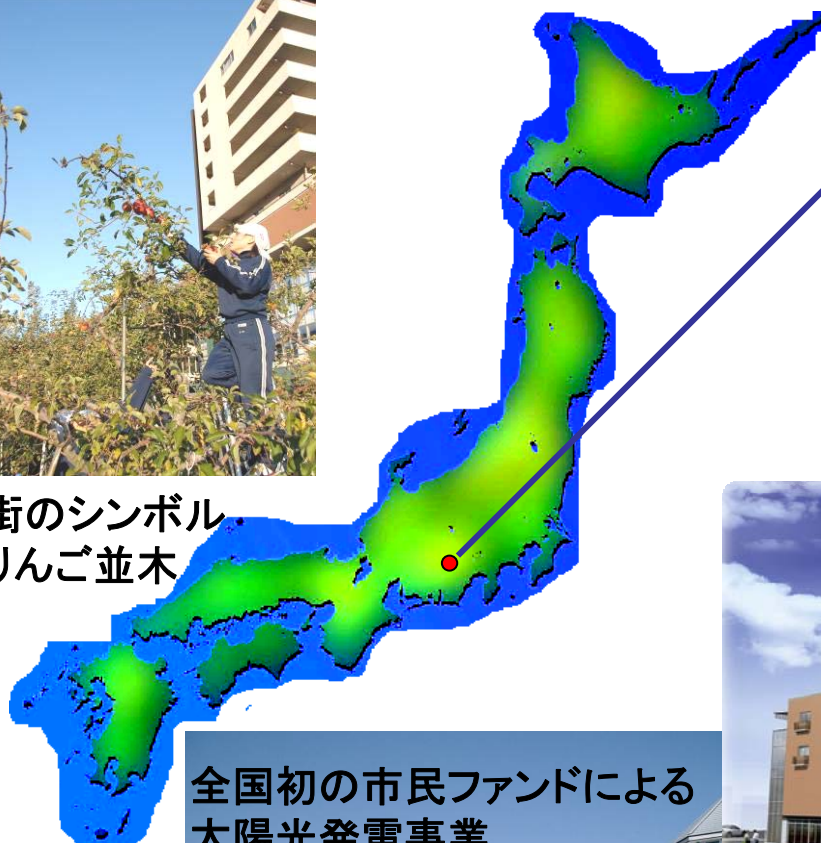
2009年10月5日
飯田市長 牧野光朗



街のシンボル
りんご並木

飯田市の概要

○面積	658.76km ²
○人口(H21.7.1)	105,825人
○世帯数(H21.7.1)	37,625世帯
○標高(市役所)	499.02m
○日照時間(2008年)	2,094時間
○森林面積(割合)	全市域の84%



全国初の市民ファンドによる
太陽光発電事業



市街地再開発
における省エネ
の推進

地域ぐるみ環境ISO研究会
の環境教育活動



環境文化都市として多様な主体で活発に取り組む地球温暖化防止活動

飯田モデルの全体構造

「おひさま」と「もり」のエネルギーが育む低炭素な環境文化都市の創造



2050年 70%削減[2005年対比]
温室効果ガス削減
 2030年 40~50%削減[2005年対比・家庭部門]

新しい社会・技術システムの構築
タウンエコエネルギーシステムの構築

都市空間への落とし込み
中心市街地における低炭素まちづくりの実践

多様な主体が参加する仕掛けの構築
低炭素で活力あふれる地域社会の形成における住民の参画と人材確保

飯田市の地域政策：「多様な主体の協働」による広がり

- ① 主体の広がり；市民、産業界が協働することにより行政の枠を超える
- ② 地域の広がり；民間が主体となることで他地域のモデルになり得る
- ③ 政策の広がり；統合的アプローチにより政策の付加価値を高める

① 主体の広がり

市民による取組

おひさま進歩エネルギー(株)

日本初の太陽光市民共同発電で
新エネルギー市場を創造



産業界による取組

地域ぐるみ環境ISO研究会

地域の産業界と行政が協働

←太陽光パネル

ハイブリッド車の心臓部→



いいだ温暖化防止の環

市民・事業者・NPO・行政が協働
例：レジ袋の削減、木質ペレット活用



環境に配慮した商品

共同で開発した商品を
市が利用



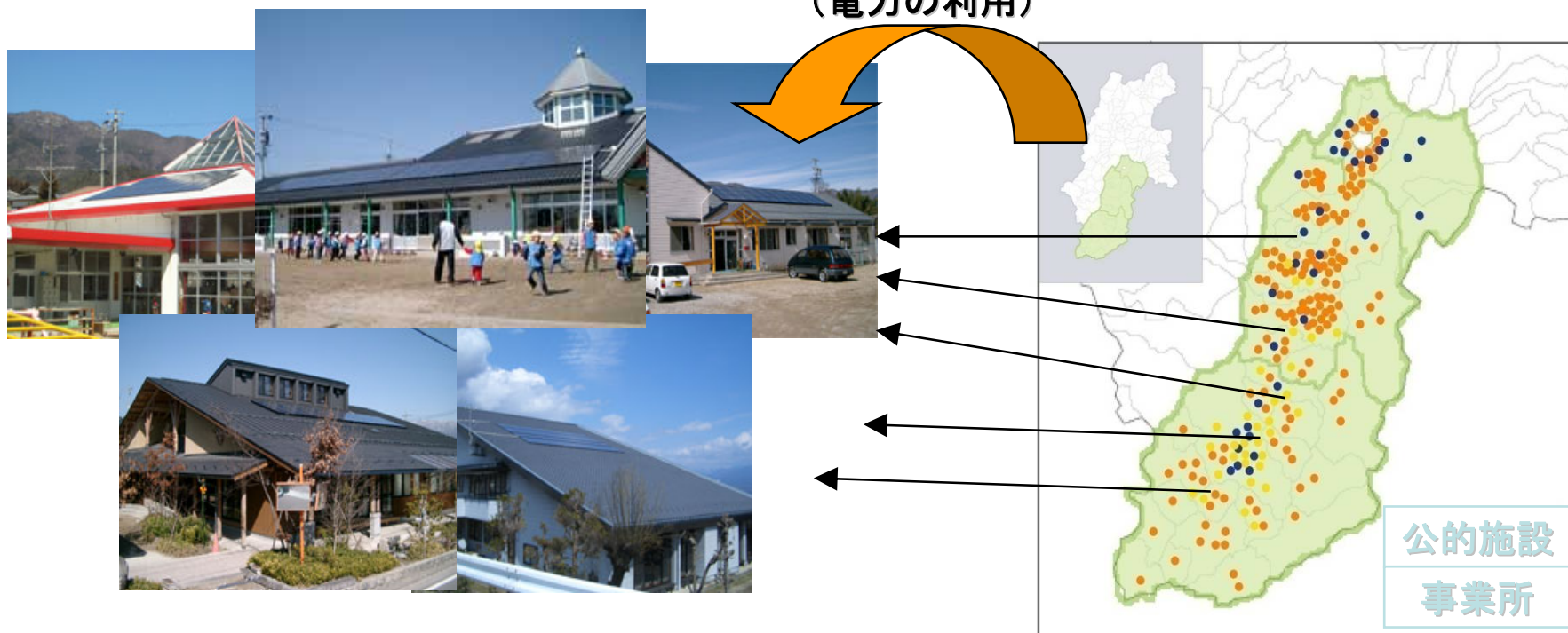
面的、質的な広がりがあってこそ、
環境政策の存在価値がある

② 地域の広がり

飯田発南信州へ おひさま発電所・設置プロジェクト

地球温暖化防止のために、全国の市民、行政、事業者の協力によって、公的施設、事業所の屋根に、H20年度までで合計1208kW、約150カ所の太陽光発電システムの設置を行うプロジェクトです。

太陽光発電システムの設置
(電力の利用)



南信州地域を中心とした約150ヶ所の
保育園・公民館・民間事業所等

③ 政策の広がり

飯田発全国へ LED防犯灯開発プロジェクト

